



## Capture App

パケットキャプチャは、Wi-Fi接続でデータが前後に流れる際に、ネットワークトラフィックをパケットの形で記録するプロセスです。パケットキャプチャは、ネットワークの問題の解析、クライアント/サーバー通信のデバッグ、アプリケーションとコンテンツの追跡、ユーザーが管理ポリシーを遵守しているかどうかの確認、ネットワークセキュリティの検証などに役立ちます。

キャプチャプロセスは、有線、またはWi-Fiテストポートを使用します。

ホーム画面からキャプチャアプリを開くか、自動テスト、ディスカバリ、Wi-Fiなど他のアプリからのリンクを使用して開くことができます。

# キャプチャの設定

キャプチャアプリの設定では、ファイルサイズやスライスサイズを指定したり、特定の packets タイプのみをキャプチャして解析するフィルタを適用することができます。

例えば、Wi-Fi フィルタを作成して、特定の AP またはクライアントとの間で送受信される packets のみをキャプチャできます。ホームからキャプチャを開き、フィルタを設定しない場合、スイッチまたはチャンネルからのすべての packets がキャプチャされます。

デフォルトの Wi-Fi キャプチャは、チャンネル 1 で見られる packets を保存します。他の NetAlly テストアプリからキャプチャアプリを開くと、キャプチャフィルタが自動で適用されます。他のアプリから適用できるフィルタは、Wi-Fi チャンネル、チャンネル幅、BSSID です。

例えば、以下の Wi-Fi アプリの BSSID 詳細画面のフローティングアクションメニューには、Wi-Fi キャプチャを開始するオプションが含まれています。



キャプチャアプリを開くと、Wi-FiアプリのBSSID、チャンネル、チャンネル幅でフィルターが既に設定されています。



キャプチャ

開始




## Wi-Fi キャプチャ

チャンネル: 11    チャンネル幅: 20 MHz

BSSID/MAC: Buffalo:18ece7-f90432

ステータス: --

キャプチャの設定は、フィルタをクリアするか、新しいフィルタを適用してアプリを開くまで保存されます。

キャプチャ画面の設定アイコン  をタップして、キャプチャの設定を行います。



**ファイルサイズ制限:** このフィールドをタップして、キャプチャファイルのサイズを指定します。デフォルトのサイズは1MBで、最大サイズは1000MBです。キャプチャファイルがこのサイズに達すると、キャプチャが停止します。

キャプチャ実行中は、キャプチャ画面に現在のファイルサイズが表示され、データをキャプチャすることができます。

**スライス・サイズ:** このフィールドをタップして、特定のフレームスライスサイズを選択するか、カスタム値を入力します。スライスサイズの設定は、キャプチャする各パケット量を制限します。

パケットのヘッダーに興味があるが、すべてのペイロードデータを表示する必要がない場合、より小さなスライスサイズの設定が便利です。デフォルトは全パケットです。

**キャプチャ・ポート:** タップして、有線またはWi-Fiテストポートを選択します。

## 有線フィルタ

他のアプリからキャプチャを開かない限り、デフォルトではすべてのフィルタが無効になっています。下のフィールドをタップしてフィルタを有効にし、フィルタ値を入力します。

**MAC:** ホストのMACアドレスを入力し、ホストのMACアドレスを送信元または宛先に含むパケットのみをキャプチャします。

**IP:** ホストのIPv4またはIPv6アドレスを入力し、そのホストとのトラフィックのみをキャプチャします。

**VLAN:** VLAN番号を入力すると、そのVLANにタグ付けされたトラフィックのみをキャプチャします。

**Port:** ポート番号を指定すると、そのUDPまたはTCPポートからのトラフィックのみをキャプチャします。例えば、HTTPトラフィックのみをキャプチャするには、ポート 80を選択します。

**NOT:** 他のフィルタで設定したキャプチャ値で使用する論理 NOTを設定します。例えば、ポート 80 の IP 10.250.0.70 を発着するトラフィックをキャプチャするフィルタを設定し、NOT を有効にすると、ユニットはポート 80 の 10.250.0.70 を発着するトラフィック以外のすべてのトラフィックをキャプチャします。

## Wi-Fi フィルタ

**チャンネル:** チャンネルボタンをタップすると、パケットをキャプチャするチャンネルを設定することができます。

**チャンネル幅:** (5GHz帯または6GHz帯でチャンネル14以上のチャンネル番号を選択した場合のみ表示されます)。

タップすると、20、40、80、160MHz (6GHz帯のみ)の幅を選択できます。

**BSSID/MAC:** BSSIDを入力すると、対象機器との間で行き来するパケットのみをキャプチャすることができます。

**コントロール、データ、管理 フレーム、ビーコン:** 初期設定では、すべてのフレームタイプがキャプチャされます。各フレームタイプのトグルボタンをタップすると、そのフレームタイプのキャプチャを無効にすることができます。



# キャプチャの実行と表示

画面上部にある**開始**をタップするとキャプチャが開始されます。



キャプチャ

開始



Wi-Fi キャプチャ

チャンネル: 11    チャンネル幅: 20 MHz

BSSID/MAC: Buffalo:18ece7-f90432

ステータス: --

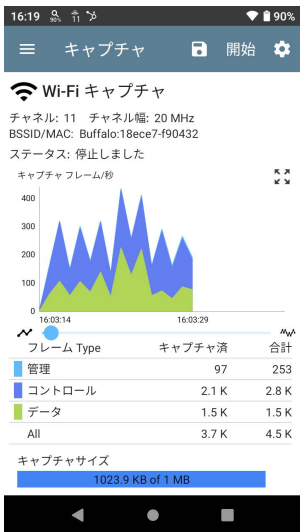
キャプチャの現在のステータスと適用されたフィルターが、キャプチャーの種類の下に表示されます。上の画像は、アプリがチャンネル 11 のトラフィックのみをキャプチャしていることを示しています。

実行中のキャプチャのステータスをリアルタイムで表示します。キャプチャアプリから移動しても、ファイルサイズ制限(キャプチャ設定内)に達するまで、キャプチャプロセスはバックグラウンドで実行されつづけます。Wi-Fiアプリを開いたり(スキャンを開始する)、自動テストを使ってWi-Fiネットワークに接続した場合は、キャプチャが停止します。

**停止**をタップすると、ファイルサイズ制限に達する前に実行中のキャプチャを停止することができます。


グラフ上でズームを行うには、スワイプ、ダブルタップ、スライダーでの移動が可能です。Wi-Fiキャプチャは、管理、コントロール、およびデータフレームタイプをグラフ化します。

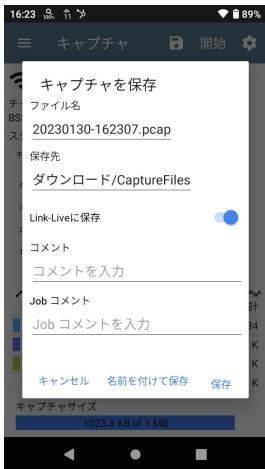
有線グラフには、キャプチャの実行中にキャプチャされているパケットのタイプと数がプロットされ、ユニキャスト、ブロードキャスト、マルチキャストのパケットタイプが含まれます。



上記のテストでは、アプリはチャンネル 6 の BSSIDで3つのWi-Fi フレームタイプすべてをキャプチャしています。グラフの下の表にある合計測定値(All)は、見たすべてのフレームを表し、キャプチャされたフレームは、フィルター・パラメーターに該当するものです。

キャプチャが完了すると、自動的に**キャプチャを保存**のダイアログが表示されます。

セーブアイコン  をタップすることでも開くことができます。



キャプチャは **.pcap** ファイルとして保存されます。ダイアログの任意のフィールドをタップして、変更を入力します。

**ファイル名:** キャプチャファイルには、日付と時刻を使用して自動的に名前が付けられます。このフィールドをタップして、カスタム名を入力します。

**セーブ:** デフォルトでは、キャプチャファイルは AirCheck G3ファイルシステムの **Download** フォルダに保存されますが、セーブフィールドをタップして USBストレージデバイスに保存したり、別のフォルダを選択したりすることも可能です。

**Link-Liveへ保存:** キャプチャファイルを **Link-Live** にアップロードし、ダウンロードしてPCで解析することも可能です。キャプチャ(.pcap)ファイルは、Link-Liveの「**アップロードされたファイル**」



ページに表示されます。

**コメント:** このコメントは、Link-Liveにアップロードされる際に、キャプチャファイルに添付されます。

**Job コメント:** これは、変更するまで、すべてのテスト結果やファイルと一緒にLink-Liveにアップロードされる永続的なジョブコメントです。ここでジョブコメントを変更すると、ユニット全体のジョブコメントが変更されます。